



未来のために 科学の声を聞こう

第48回 公害・環境デー 開く

2月1日(土)午後、「第48回公害環境デー」が、約200名の参加で開催されました。



冒頭に金谷邦夫実行委員長より、新型コロナウイルスについて、医師としての立場から、「むやみに怖がる必要はないが、注意は必要だ」として注意事項について説明され、特別講演で「科学の成果について、学ぶことの大切さ」を学んでほしいと

強調されました。

特別講演では池内了氏(名古屋大学・総合研究大学院大学・名誉教授)から、「公害・環境問題を宇宙科学者の目で考える」の特別講演がありました。(2頁参照)

その後、4つの団体から公害被害者訴訟等への支援の訴えがありました。

- ・「福島原発事故から9年後の被災者避難者の子どもの人権状況」
森松明希子氏(原発賠償関西訴訟原告団)
- ・「被害者の命あるうちに解決を」
加蒞 匠氏(関西建設アスベスト訴訟弁護団)
- ・「今年は裁判の山場で大きな支援を」
前田芳江氏

(ノーマミナマタ近畿二次訴訟原告団)

- ・「公害調停についての現状とぜん息患者への医療費助成を求める訴え」
上田敏幸氏、川勝恭子氏
(大阪公害患者と家族の会)

また、3つの特別報告を受けました。

- ・「2020年からの10年が人類の未来を決める～COP25の結果と課題～」
早川光俊氏(CASA専務理事)
- ・「若者が活動する思い Fridays For Future 大阪の活動」
小林誠道氏(FFF大阪)
- ・「ソラダス2020に参加を！」
西川榮一氏(ソラダス実行委員会委員長)

会場討論の後、藤永副実行委員長が「公害環境問題での今年の重要ポイント」などをまとめて閉会となりました。

参加者からは「池内先生の話が大変わかり易かった」「原告の方の訴えは心にしみた」「多くの公害問題がまだ深刻であることがわかった」など、多くの感想文が寄せられました。

公害・環境デーでは多くの団体と個人の方から協賛金をいただき、また当日行われた公害被害者訴訟支援カンパの訴えにも多くの方がカンパを寄せていただきました。紙面をかりて御礼申し上げます。